都立府中療育センター新聞　第460号　発行日　平成28年3月31日

第20回地域療育講習会

医療社会事業担当係　武田　祥和

２月２９日（月）多摩総合医療センター「フォレスト」において、地域の療育関係者を対象とした「第２０回地域療育講習会」を開催しました。この講習会は当センターの療育経験から得られた知見や提案を、地域で重症心身障害児（者）の療育に携わっている多くの方々に役立てていただきたいという趣旨で平成１９年から実施しています。

今回は、当センターの「摂食・嚥下ワーキンググループ」メンバーの渥美医師、谷野認定看護師、山本言語聴覚士、関戸理学療法士、鶴見管理栄養士が講師となり「障害児者の嚥下機能低下への対応～加齢による変化」と題して、疾患別の特徴、回診の実際と認定看護師の役割、食物・水分摂取困難への対応、安全な摂食のためのポジショニング、食形態の変化と工夫について１０年前と現在とを比較した動画で症例報告を交えながら説明を行いました。

障害を持っている方の摂食嚥下障害は、早期に増悪してしまうため、多くの対象者がいます。また、家族と医療側で認識のずれがある場合、本人の負担になってしまうこともあるため、話し合いを重ねて問題点を確認し、ギャップが無いよう修正することが大切です。そのため実際にお菓子やとろみつきの水分を参加者に試食してもらい、自分たちが普段気にしていない飲食する行為を体験していただきました。水分摂取が困難な場合はとろみをつけますが、濃いとろみでは危険であり、適切な濃度が必要であることを強調しました。そして、当センターの食形態には、普通食、一口大食、柔らか食、ペースト食、ミキサー食があり、会場で展示して見ていただきました。以前出していたペースト食の主食は長年パン粥が基本でしたが、米食を食べやすく提供したいとの目的で酵素粥を導入していることも紹介しました。

最後に、加齢による摂食嚥下機能の低下は、個人差が大きいので、日ごろの摂食状況から食事摂取に関する問題の有無などを見極め、食事摂取に関する問題がある場合には、適した食形態へ変更することが大切です、と締めくくりました。

当日は療育分野の関係機関から、医師、歯科医師、看護師、栄養士、理学療法士、福祉職や家族など１３５人が参加しました。活発な質疑応答が行われ、会の終了後も個人的に講師に質問している姿がありました。「様々な職種の方が、知識を持って取り組んでいる様子がよくわかりました。」「それぞれの職種が職域を超えて取り組める職場環境がなせるものと思いました。」「内容が濃く、大変勉強になりました。また参加したいです。」との感想が寄せられました。

卒業・進級おめでとうございます!～くぬぎ分教室～

くぬぎ分教室担任　伊東　宏一

3月22日、本校の卒業式に出席し、壇上にてたくさんの方々から祝福を受けながら卒業証書を受け取りました。

３月２５日（金）都立府中けやきの森学園くぬぎ分教室の教育活動が終了しました。在籍生徒２名のうち、１名は高等部を卒業し、１名が高等部２年に進級しました。卒業・進級おめでとうございます。卒業生・在校生が頑張ってきたことをお話しさせていただきます。

卒業生は、小学部を卒業するまでベッドサイドで授業を受けていました。学齢の進行とともに登校できる日が少しずつ増え、高等部の２年生からは午前・午後ともに安定した様子で教室へ登校して授業を受けることができました。授業中は、目新しいものを発見すると瞼を大きく開いて驚きや関心を表現！教材や授業者の特徴的な動きや言葉かけを覚えて、気配や場面を感じると、目線をその方向に向けて次の働きかけが待てるようになりました。

在校生は、３月２５日に修了式を迎えました。授業中は、見えや聞こえの変化に関心を向けながら活動に参加することができました。楽器や光素材など好きな教材でのやり取りを予想して授業者に注目できる時間が長くなりました。屋外散策や調理学習などでは、活動のための準備が始まると特定の音声で、期待感や喜びを表現できるようになりました。

学齢期のこどもの発達は、時に緩やかに時に急激に進みます。毎日同じことをしているように見えても、こどもはその都度、新しい発見をしています。この活動の積み重ねや発見こそが、次のステップを踏むための支えや自信につながっていくのです。

府中療育センターの皆様には、いろいろとご配慮、ご協力いただきありがとうございました。

1年間のまとめとして修了書が手渡されました。

通所　ひな祭り会

通所　癸生川　傳恵

3月3日（木）通所にて、季節行事「ひな祭り会」を行いました。豪華なひな壇を眺めながら由来を聞いた後、「枯れ木に花をさかせましょう～花咲か姉さん・兄さん」ゲームを楽しみました。

2チームに分かれ、サイコロで出た目の数だけ、足型もしくは手型スタンプを紙に押し、大きな紙に書かれた木にその型を貼っていくものです。さらに、インクの着いた手や足は、桜湯に浸けて洗い流すオマケ付き。サイコロを転がす応援の声、桜湯のいい香りときれいな色合いの湯に浸かり、ホッとしているような表情を見せている利用者のみなさん・・・。

結果発表は皆真剣に聞き入りました。みんなの頑張りで、枯れ木には見事、きれいにスタンプの花たちが咲きました。

もう一つオマケで、お内裏様とお雛様に扮し、ひな祭りバージョンの写真フレームを持ち写真撮影もして、ひな祭りを存分に味わいました。

おもちゃと遊ぼう会

指導科　目黒　由美子

３月９日（水）指導科行事「おもちゃと遊ぼう会」が行われました。当日は朝からの雨のため、プログラムを変更し、通所棟のＬホール・浴室・ロビーで行いました。「府中市おもちゃと遊ぶ会」「府中市手作りおもちゃの会」合わせて９名のボランティアのご協力で、楽しいひと時を過ごすことができました。

ボール投げコーナーでは、マジックテープのついたボールを壁に掛けた布に投げて鬼退治をしたり、直接ボールを付けてりんごの木になったりと行列ができました。魚釣りコーナーでは、手作りの魚と竿を使って釣りを行い、思いもよらぬ大漁に笑顔が見られていました。おもちゃコーナーでは、懐かしいおもちゃがたくさん並び、ボランティアさんと一緒に楽しむことができました。音や光の出るおもちゃも好評でした。今回のプレゼントは、今年の干支の「申」の手作りマスコットでした。利用者似の顔がいっぱいあり、そっくりマスコットを嬉しそうに選んでいました。

年に一度の会ですが、両会とも２５年以上もの長いお付き合いで、利用者の方とも顔なじみになっています。３４年間も関わっている方もいらっしゃり、触れ合いの場として大切にしてくださっています。「雨で心配だったが、今年も楽しめて良かった。」「次回も皆さんの笑顔をみたいです。」と最後にお話しされていました。来年も楽しみに待っていましょう。

ボランティア懇談会

ボランティア委員会事務局（指導科）　石田　泰美

３月２日（水）ボランティア懇談会を開催し、５名のボランティアの方が参加されました。

内容は学習会と懇談会の２部構成です。今年の学習会は、最初に工藤感染管理認定看護師から「感染予防について」の講義を受けた後、手洗いを実践し、洗い残しがないかグリッターパグ等を用いて確認を行いました。ボランティアの方からは、「マスクの付け方や休んだ方がよい体調は？」等の質問があり、感染予防について考えていただく機会となりました。

懇談会では、初めに14名のボランティアの方の活動場面の写真紹介を行い、参加者からは、「他の人がどんな活動をしているのかを知ることができて勉強になった」という感想をいただきました。また、事前に行ったボランティア同士の活動見学会について、見学会をきっかけに、一緒に活動するようになってよかったという声や、利用者との関わりの中で心がけていること、悩み、一緒に楽しんでいること等々、沢山のお話を伺いました。

今回頂戴したボランティアの方々の率直な意見や感想を参考に、職員一同、ボランティア活動の充実にむけ、力を合わせていきたいと思います。

最後に、参加してくださったボランティアの皆さんや、活動場面の写真撮影にご協力をいただいたボランティアの皆さんに、深く感謝いたします。

多摩メディカル・キャンパスあり方検討会報告

事務長　平山　信夫

都の病院経営本部では、当センターを含む多摩メディカル・キャンパス内各施設の相互連携体制を一層推進し、多摩地域の医療の充実・強化を図るため、多摩メディカル・キャンパスあり方検討会を設置し、検討を進めてきましたが、このたび、報告書がまとまりました。

当センターの関連では、キャンパス内の都立３病院と当センターでは、入所者の急変時の対応や、小児総合医療センターや神経病院から在宅移行した障害児のレスパイトなど、相互に連携を行っているが、重症心身障害児（者）の在宅支援、発達障害児への医療支援、ＮＩＣＵを退院した障害児の在宅移行を強化するためには、連携を強化し、地域の関係機関の支援に取り組む必要があるとしています。

なお、当センターの跡地については、キャンパスのあり方を十分念頭においた有効活用の方策を今後検討していく必要があり、難病医療やがん医療等の医療機能等の充実、災害時における対応力の強化に向け、平成３６年度までにキャンパス内の施設整備を終了することが望ましいとしています。

退職者を送る会

事務室　古本　恭子

３月１１日（金）パレスホテル立川において、退職者を送る会が開催されました。退職者４名を含め、各科・病棟から全体で１３６名の参加がありました。

退職者からの挨拶や、訓練科、保育士の皆さんからの出し物などがあり、センター職員の連携の強さが表れた温かな会となりました。

今年度退職を迎えられる皆さま、長い間本当にありがとうございました。今後もますます活躍されることを祈念いたします。

腰痛対策ワーキンググループ　床走行リフトを導入

事務室　山口　裕輔

職員の腰痛対策として、床走行リフトを導入しました。

導入に当たっては、まず体重の重い利用者の方に対する移乗時のリスク軽減に焦点を当て、２月から３月にかけて床走行リフトの試行的導入を行いました。試行的導入の結果を踏まえ、腰痛対策ワーキンググループにおいて機器移動時の快適性を評価し、導入を決定しました。

今後の活動として、機器の運用状況を調査し、使用の対象となる利用者に合わせた新たなスリングの導入など、一層の使用促進を図っていきたいと思っています。

〒１８３−８５５３
東京都府中市武蔵台２−９−２
東京都立府中療育センター
電話　０４２（３２３）５１１５
Fax　０４２（３２２）６２０７

＊−＊−＊ホームページもご覧下さい＊−＊−＊
http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/fuchuryo/index.html